



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2012号）

令和2年7月29日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

1. 2020 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報をお知らせします。

国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所と日本海沿岸各道府県等が検討した 2020 年 8 月～12 月のスルメイカ漁況予報をお知らせいたします。

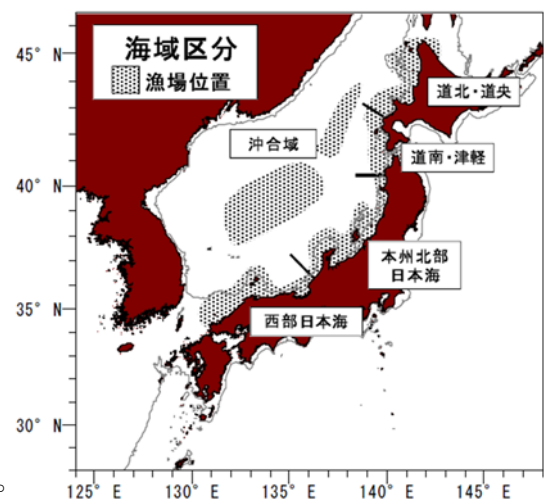
【今後の見通し(2020 年 8 月～12 月)】

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（右図参照）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、
後半は冬季発生系群も含む



1. 今期の日本海全体の来遊量は前年を上回り、
近年平均を下回る。

2. 西部日本海（福井県～長崎県、小型いか釣り）
（1）来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。
（2）漁期・漁場：近年同様、漁場が形成されにくい。

3. 沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域、いか釣り）
（1）来遊量・漁況：前年を上回り、近年平均を下回る。
（2）漁期・漁場：北海道西沖で 8 月～11 月、大和堆周辺海域で 11 月～12 月に漁場が形成される。

※「近年平均」は最近 5 か年（2015 年～2019 年）の平均、前年は 2019 年を示す。

詳細及び他海域の予報は、別添の予報文資料をご覧ください。

予報内容の詳細は、国立研究開発法人水産研究・教育機構のウェブサイト（プレスリリース：<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/index.html>）にも掲載されています。なお、漁況予報は、水産庁の「我が国周辺水産資源調査・評価等推進委託事業」により、資源の合理的利用、漁業経営の安定及び操業の効率化を図り、資源の持続的利用に役立てることを目的として行っているものです。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：鈴木）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

E-mail：nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

HP：<http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.htm>

2020年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2020年8月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

1. 道北・道央（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：今期の前半は前年を上回り、近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：8月までと10月～11月に来遊のピークがある。

2. 道南・津軽（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年および近年平均を上回る。

(2) 漁期・漁場：8月までに来遊のピークがある。

3. 本州北部日本海（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年並で近年平均を上回る。

(2) 漁期・漁場：前年同様、夏季に漁場が形成される。

4. 西部日本海（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：近年同様、漁場が形成されにくい。

5. 沖合域（いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年を上回り、近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：北海道西沖で8月～11月、大和堆周辺海域で11月～12月に漁場が形成される。

* 道北・道央（宗谷～後志）、道南・津軽（渡島、檜山、青森県）、本州北部日本海（秋田県～石川県）、西部日本海（福井県～長崎県）、沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）。

* 近年平均は最近5年間（2015年～2019年）の平均、前年は2019年を示す。

I 予報の説明

2020年6月までの日本海沿岸各地の漁況の経過、6月中旬～7月上旬に実施した日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果、冬季発生系群を主体とした太平洋側への来遊状況（2020年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報）、および9月までの海況予報（2020年度 第2回 日本海海況予報）を情報として、今期の漁況を予測した。

1. 道北・道央（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では、近年、7月～8月と10月～11月に漁獲量のピークがある。前半は秋季発生系群が主対象であり、後半は夏季に日本海を北上した後、南下する群のほか、道東・オホーツク海から宗谷海峡を經由して来遊する冬季発生系群も漁獲対象となる。

【今期の情報と予報の説明】 日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果では、本海域の分布量は前年および近年平均を上回った。本海域における6月の漁獲量は、前年および近年平均を下回った。また、日本海スルメイカ漁場一斉調査において、今後、当海域に北上してくると考えられる道南・津軽海域のスルメイカの分布量は前年を上回り、近年平均を下回った。以上のことから、今期前半の来遊は前年を上回り、近年平均を下回ると予測される。今期後半については冬季発生系群が漁獲の対象に加わるが、現時点では宗谷海峡からの来遊量に関する判断材料が揃わないため予測ができない。

2. 道南・津軽（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では近年、6月～8月に漁獲量のピークがある。また、11月～12月には、夏季に日本海を北上した後、南下する群のほか、太平洋側から津軽海峡を經由して来遊する冬季発生系群を対象とした漁獲のピークができる場合がある。

【今期の情報と予報の説明】 日本海スルメイカ漁場一斉調査による本海域での分布量は前年を上回り、近年平均を下回った。本海域における6月の漁獲量は、前年を上回り近年平均を下回った。また、今期後半の本海域への来遊量に関係する太平洋側の9月までの来遊は、道東太平洋海域、津軽海峡～道南太平洋海域で前年を上回り、常磐～三陸海域で前年並と予測されている。なお、本海域における前年の8月～12月の漁獲量は、概ね近年平均並であった。以上のことから、今期の来遊は近年平均並であった前年を上回ると予測される。

3. 本州北部日本海（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では、近年、5月～7月が漁期の中心で、8月～11月には好漁場が形成されない。12月の漁場形成には、海況の影響が大きいと考えられる。

【今期の情報と予報の説明】 本海域における6月の漁獲量は前年および近年平均を上回っており、また7月中旬時点において、本海域全体で漁場が形成されていることから前年同様に7月までの来遊が8月以降も継続すると予測される。一方で、今期後半の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUE（後述）は前年および近年平均を上回った。このため、今期後半に沖合から来遊する群は前年より多いと予測されるが、12月の漁況は沖合冷水の張り出しとの関係が大きく、現時点では来遊量を予測できない。以上の状況から、今期前半の来遊がある程度期待され、今期の来遊は前年並で、近年平均を上回ると予測される。

4. 西部日本海（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では10月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となる。ただし、近年は10月～12月の南下群の来遊が少なく、漁場が形成されにくい。なお前年は特異的に9月まで福井県で例年よりも漁獲が多かったが、海域全体では8月～12月の漁獲は近年平均を下回っている。

【今期の情報と予報の説明】 本海域での6月までの漁獲は前年および近年平均を上回っているが、近年の中では特異的に来遊が継続した前年に及ばないと予測される。一方で、今期後半の来遊量の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUE（後述）は前年および近年平均を上回った。このため、今期後半に沖合から来遊する群は前年より多いと予測されるが、近年は本海域の予測期間での主漁期となる12月に漁場が形成されにくい年が続いている。以上の状況から、今期の来遊は前年および近年平均を下回ると予測される。

5. 沖合域（いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 沖合域では従来、6月～12月にかけて大和堆周辺海域に、水温の高い8月下旬～9月には北海道西沖にも漁場が形成されてきた。しかし、近年は漁場が北偏化し、8月～11月は主に北海道西沖に漁場が形成され、大和堆周辺海域では6月～7月および11月～12月に漁場が形成される年が多くなっている。なお前年の漁場の推移は特異的で、6月～8月上旬まで能登半島周辺、佐渡沖および北海道西沖に、8月以降は大和堆で漁場が形成され、北海道西沖が漁場となったのは7月までの短期間であった。

【今期の情報と予報の説明】 日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果による本海域の分布量は、前年および近年平均を上回った。ただし本年の分布量（漁場一斉調査の沖合域の平均CPUE）は、極めてCPUEが高い点の影響が大きく（Ⅱ-1-1）にて詳述）、広く分布が見られた2018年以前の分布状況とは異なることに注意を要する。以上の状況から、今期の本海域への来遊は前年を上回り、近年平均を下回ると予測される。漁期・漁場に関する情報として、今期前半の表面水温は「やや高め」と予測されており（2020年度第2回日本海海況予報^{*1、2)}、7月8日発表）、近年同様、北海道西沖で8月～11月、また、大和堆周辺海域では11月～12月に漁場が形成されると予測される。

*1) <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2020/20200708/index.html>

*2) 日本海海況予報における平年は1986年～2015年の平均値

Ⅱ 予報に用いた主要な情報および調査結果

1. 日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海におけるスルメイカ秋季発生系群の分布状況を、日本海側の7道県および水産研究・教育機構による調査船でのいか釣り試験操業（6月中旬～7月上旬に実施）によって調べた（図1）。

1) 分布状況

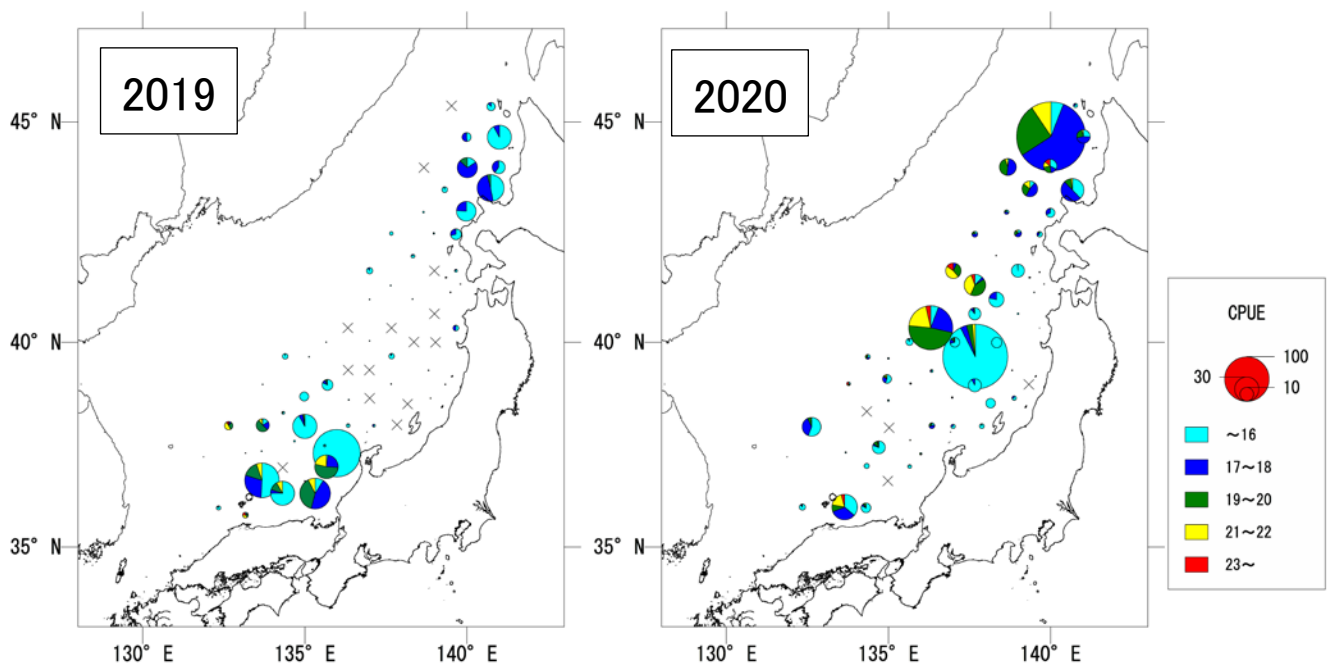


図1 日本海におけるスルメイカの分布状況（2019年と2020年の調査結果）

図中×は漁獲がなかった点を示し、●の面積は各調査点の分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）を示す。また各色は各外套背長範囲(cm台)の比率を示す

- (1) 道北・道央海域では、外套背長16cm台～18cm台の個体を中心に採集された。分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）は沖合の241尾が最大で、最も北の一点を除き、10尾前後の漁獲があった。
- (2) 道南・津軽海域では、外套背長13cm台の比較的小型の個体と17cm台の個体を中心に採集された。CPUEは檜山沖の12尾が最大で、次いで9尾の点があり、そのほかは3尾を下回った。
- (3) 本州北部日本海では、外套背長17cm台～18cm台の個体が主体であった。CPUEは佐渡北西の点で5尾であったほかは2尾を下回り、漁獲のない点もあった。
- (4) 西部日本海では、外套背長は小型の12cm台～13cm台の個体を中心に採集された。CPUEは隠岐東の点で33尾が

最大であったほかは5尾を下回り、漁獲のない点もあった。

(5) 沖合域では、外套背長14cm台～15cm台が主体で、19cm台～20cm台も採集されたが、近年の同海域の組成と比べると小型に偏っていた。CPUEは北緯39度40分、東経137度40分の点で212尾が最大で、次いで、北緯40度20分、東経136度20分の点で99尾となった。例年CPUEの高い大和堆周辺のCPUEは低く、大和堆から北東に外れた沖合域でCPUEが高い傾向にあった。また漁獲のない点もあった。

2) 日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均 CPUE

日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）を日本海への来遊量の目安として示した。日本海スルメイカ漁場一斉調査の平均CPUEは、1980年代には低かったが1990年代に上昇し、2000年～2002年には3年連続して20尾を越えた（図2）。2003年以降は概ね15尾前後で推移していたが、近年は低下傾向にあった。2020年は14.50尾で、前年（7.40尾）および近年平均（11.02尾）を上回った。ただし、高密度の点（北海道西沖および北緯39度～41度、東経136度～138度付近の沖合域）があったのに対し、本州沿岸域は比較的低密度の点が多かったことに注意する必要がある。

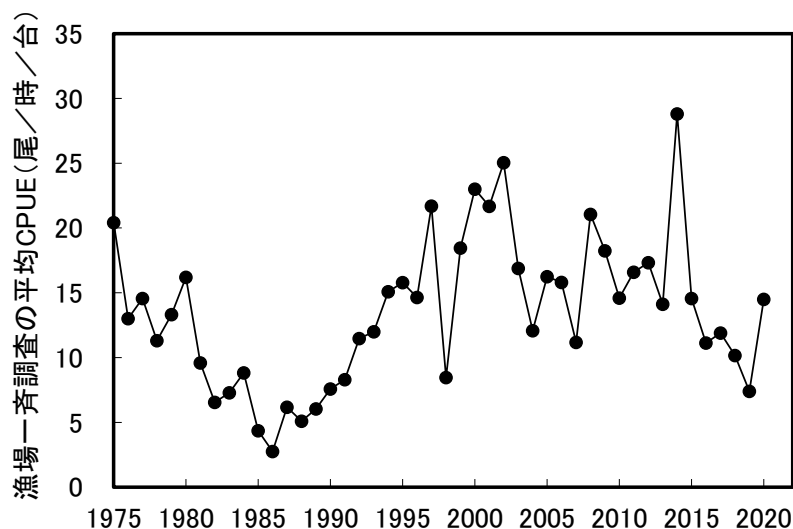


図2 日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）の推移

3) 魚体の大きさ

日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUEで重み付けした外套背長組成を図3に示す。2020年は17cm台～18cm台に外套背長組成のモードがあった。外套背長組成のモードは前年より大きく、近年平均よりも小さかった。また大和堆周辺では、例年比較的大型の個体が多いが、本年は同海域の分布密度が低かった一方で、大和堆から北東に外れた沖合域において、19cm台～20cm台および14cm台～15cm台の個体が多く採集される点があった。

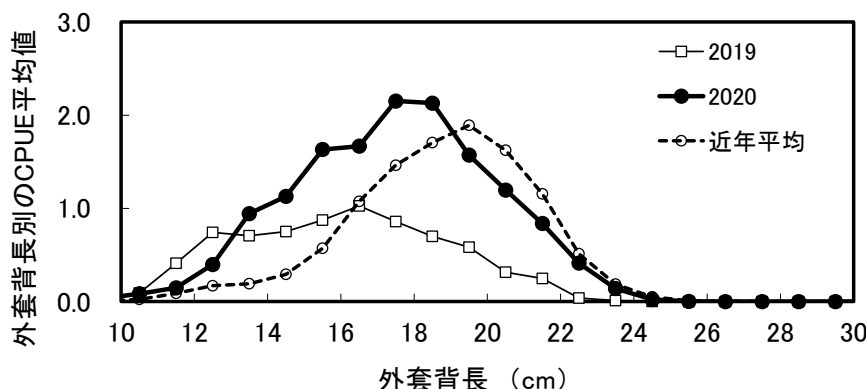


図3 日本海スルメイカ漁場一斉調査結果によるCPUE重み付け平均外套背長組成
各外套背長階級の値は釣機1台1時間あたりの平均採集尾数を示す

2. 2020年6月までの日本海各海域の漁況の経過

2020年6月までの各海域の月別漁獲量を図4に示す。2020年4月以降の漁獲量（4海域合計）を月別に見ると、5月までは前年並で推移し、6月に前年を上回った。道北・道央では、例年通り6月に漁獲が開始されたが、漁獲量は前年を下回った。道南・津軽では、例年6月から漁獲が本格化するが、今期6月の漁獲量は前年を上回った。本州北部日本海での漁獲量は、5月までは前年並で、6月に入り前年を上回った。本州北部日本海での漁場の中心は前年と同様、能登半島周辺であるが、その他の海域でも前年を上回った。西部日本海では、4月～6月にかけて前年を上回った。

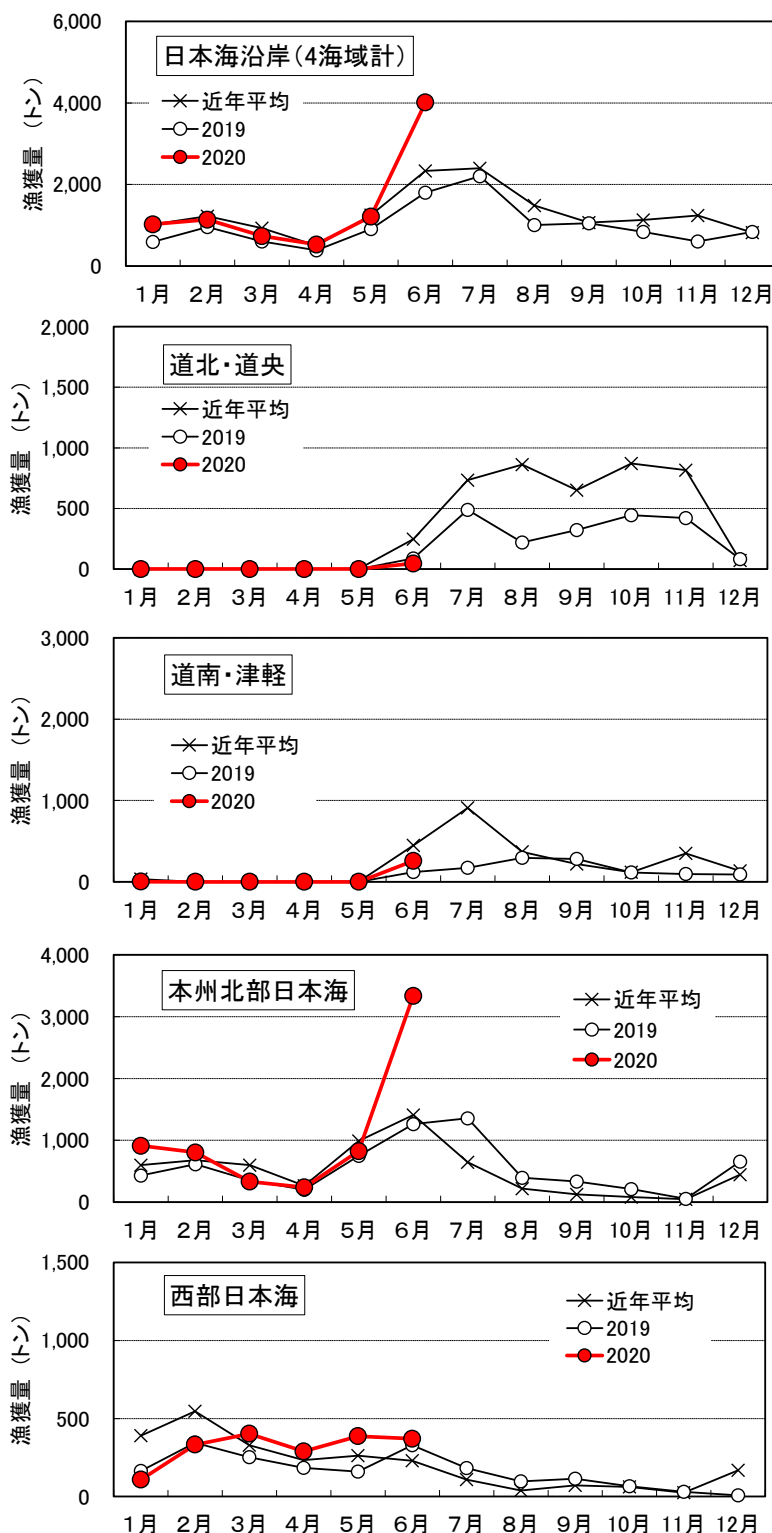


図4 日本海各海域の生鮮スルメイカの主要港漁獲量
各道府県試験研究機関および漁業情報サービスセンターの資料より作成

3. 太平洋側（冬季発生系群）の資源状況

太平洋側には主にスルメイカ冬季発生系群が分布する。これらは10月以降、宗谷海峡および津軽海峡を經由して日本海に來遊するため、太平洋側の漁況は10月以降の日本海の漁況に深く関係する。

2020年度第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報（7月29日発表）では、8月～9月の太平洋側への來遊は、道東太平洋海域、津軽海峡～道南太平洋海域で前年を上回り、常磐～三陸海域で前年並と予測されている。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 函館水産試験場 稚内水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産研究所	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	長崎県総合水産試験場
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
福井県水産試験場	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所